

## 第1回阪南市総合計画審議会議事録【要旨】

日時：令和2年11月6日（金）14：00～15：50

場所：市役所3階全員協議会室

### 1 市長挨拶

- ・人口減少、少子高齢化が進む中で財政再建、行財政改革の必要性。
- ・SDGsの観点での「まちづくり」として、誰も取り残さない社会を推進。
- ・住民主導による公民共同の地域づくりを目指す。
- ・財政再建には、企業誘致が必要。
- ・関係人口の増加のためにも、福祉のまちづくりを推進。

### 2 委員長挨拶

- ・総合計画は抽象性が高いが、方向性ははっきりと示す必要がある。
- ・コロナ禍で市民の価値観・人生観も大きく変化  
[生駒の例]ベッドタウンの看板をおろした。  
→市で暮らす、活動する人を増やす。

### 3 資料説明

#### ①総合計画の策定方針、スケジュール

基本構想12年間、基本計画4年間。実施計画は3年間とし毎年度策定。

審議会の開催予定[以下]

二回目：1月21日（木）、基本構想の素案に対する審議

三回目：3月26日（金）、基本構想の案に対する審議

#### ②阪南市次期総合戦略に係る住民意識調査報告書の概要

総合計画各施策の達成度の変化

### 4 議論・委員からの意見

#### ①観光

- ・観光・歴史文化をPRして外から人を呼び込むことが必要。
- ・住民に観光のメリットを伝えて、交流人口の拡大を目指すべき。
- ・マイクロツーリズムを推進し、リピーターを拡大することも1つの考え方。
- ・阪南市ツアーを作ったが、駐車場が問題。また、阪南市民が魅力的な場所だと感じたらおのずと魅力的なまちになるのでは。
- ・リタイア層は阪南市が好きみたいで、理由は海と山です。そのため、大阪市内から姫路と同じくらい遠い阪南にやってくる。

#### ②空き家の活用

- ・ゲームソフト博物館の事例（地方から人が来る）。
- ・漁港は道が狭いので、消防・防災の両面でのまちづくりが必要だが観光も併せて考えると

新しい観点が得られる。

### ③子育て層に対する支援

- ・明石市は税金を投入してサービスを提供しているが、宝塚市はお金をかけずに市の魅力を発信して人を呼ぶことを検討中。
- ・働きたい人は働ける、子育てをしたい人はできるという環境を作れば、働きたい人はこの阪南市でより活躍できると思う。
- ・キャリアカウンセリングの場で、今すぐの収入を考えて仕事を選ぶか、それとも、中長期的に考えて仕事を選びますか、そこから考えていきましょうという話をする。女性は色々なライフイベントがあり、それをこなした後の復職の仕方を考えて逆算すると、今どうしたらいいのか、が見えてくる。
- ・阪南市で、空き家を利用して産後ケアハウスを開設してはどうか。高齢者で支えてくれる人もいだろうから自分の子どもを預けて、じゃ自分は外でお金稼いできます、って感じで仕事する。

### ④情報の伝え方

- ・市民が市の現状(財政、人口ピラミッド など)を知らない。自分自身に係わること、それが子どもや孫の世代に係わってくるという自覚を持って考える、そのきっかけを作るのが必要ではないか。
- ・実際に暮らしてみるとすごく魅力的なまち、だと感じる。
- ・一度持たれたイメージを覆すのは難しい。

阪南市がマスメディアにどんなニュースで取り上げられているのかを調査 **【宿題】**

### ⑤テレワークへの期待

- ・コロナにより若い人の働き方が変わり、阪南市のデメリットが薄まるのではないか。

### ⑥交通

- ・阪南市は、山側から海側への移動が不便。それを解消できれば、観光客向けだけでなく、市民の利便性も上げていくことができる。

### ⑦参考

- ・生駒市では、市民意識調査において先進的な暮らし方をしている層に焦点を当ててこれからの施策の方向性を検討。
- ・市民意識調査において、価値観に紐づけた分析が求められる。

## 5 事務局への宿題

○阪南市がマスメディアにどんなニュースで取り上げられているのかを調査 **【再掲】**